



ゆうこみゆぎの

なるほどアイヌ文化エッセイ

ソッコ de ソッコ



アイヌ文化のことをもっともっと話したい！
本田優子と村木美幸の二人が、
その魅力を交代で執筆する
ソッコ(=お便り)形式のエッセイです。

Vol.82

今月のテーマ
イヨマンテ
ークマの霊送りー



村木美幸
(アイヌ民族
文化財団理事)

アイヌの儀礼といえ
ば、イヨマンテをイ
メージする人は多いの
ではないでしょうか？ヒグマやシマフクロ
ウなどの動物の霊を送るイヨマンテの多く
は、この時期におこなわれたといえます。

雌のヒグマは冬眠をしている穴の中で
仔グマを生みます。アイヌのクマ猟の多く
は冬眠をしている穴を狙う春先のクマ穴
猟で、母グマはその場で射止め、カムイモ
シリ(神の国)へ送る儀礼をおこない、仔グ
マはコタン(村)へ連れ帰って、一〜二年育て
た後、親元であるカムイモシリに送るとい



イラスト / 莊田悠人

う飼うグマの儀礼がおこなわれます。
私がアイヌ民族博物館で体験したイヨ
マンテは六回、中でも一九九四年には歳の
仔グマをレクチヌンパといってヒグマの首
を二本の丸太で挟み、絞めることで肉体
と魂を分けるというものでした。
イヨマンテの準備は十日位前からはじ
め、イナウ(木幣)やヘペライイ(花矢)な
どの祭具の準備は男性によって、酒や料理
などの供物の準備は女性によっておこな
われます。イコロ(宝物)や土産が飾られた
又ササン(祭壇)の前で、解体がおこなわ
れ、頭部と毛皮だけの姿となって神窓から
家の中に招き入れられます。カムイ(神)



次回のテーマは
「フスリーアイヌの伝統的薬学知識」
が担当します。
本田優子(札幌大学教授)

の頭部にイナウなどが飾られる他、牡には
エムシ(刀)、雌にはタマサイ(玉飾り)が飾
られ、たくさんのお供物が供えられます。こ
の時、カムイの魂は耳と耳の間において、人
間のおこないを見ているのだといえます。
飼うグマのイヨマンテには、来客が招か
れ、厳肅なカムイノミ(神への祈り)、ユカ
ラ(英雄叙事詩)や歌、踊りなど楽しい祝
宴もおこなわれます。クマ神の頭骨はイ
ナウキケ(削り掛け)で飾られ、又ササンの
たくさんのお土産と共に親元へと旅立って
いきます。クマ神は、アイヌから持たされ
た土産で他のカムイをもてなし、人間の国
で歓迎されたこと、人間の国がいかに良
いところであるかということを話し、広め
てくれるのだといえます。
たくさんのお土産が再帰すること豊
かに暮らせることを願い、おこなわれるイ
ヨマンテ。北海道では「カムイ」とだけい
えばヒグマを指すことから、ヒグマが特別
な存在であることがわかりますよね。



■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■莊田悠人(しょうだゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。